

講習No.
U23
選択

継体天皇の考古学

講習の開催地

宇治キャンパス

講習の期間 **平成26年11月8日(土)**

受講料 **6,000円**

対象職種 **教諭**

定員	時間数	試験方法	担当講師	山中 章(三重大学人文学部名誉教授・京都文教大学非常勤講師)
25人	6時間	筆記試験		

主な受講対象者 小学校・中学校・高等学校教諭

講習の概要

継体天皇は応神天皇の五世の孫と称して507年、突然、越から出てくる。しかし、『日本書紀』によれば、直ぐに大和に入ることができず、樟葉、弟国、綴喜と周辺部を移動しながら入場の時期を探っていた。この間継体天皇はあらたな墓の造り方を導入し、新たな食文化を伝えた。本講座では、政治、経済、文化の面で大きな変換点となる継体朝の歴史を主に考古資料から検討し、学校教育の補助資料を提供することを目的としている。

1限 9:00~10:20(80分)	2限 10:30~11:50(80分)	3限 12:50~14:10(80分)	4限 14:20~15:40(80分)	5限 15:50~16:30(40分)
稲荷山鉄剣銘文と倭王武 継体天皇出現前夜、巨大古墳群を築造した5世紀のヤマト王権の支配のあり方を稲荷山鉄剣銘から探る。	継体大王の出現と越前・近江・山背 継体大王の父の本拠地とされる近江西北部、母の故郷とされる越前国丸岡高棕、大和に侵攻するために準備を整えた山背弟国には関連する古墳が点在する。古墳の形態や副葬品の特長を通して6世紀の古墳文化の変化を紹介する。	宇治二子塚と継体王権 継体王権を支えたのは山背地方南部(弟国、宇治、綴喜郡)の諸豪族であった。宇治で支えたのは二子塚古墳を築造した木幡の豪族であった。大学の近くに残る二子塚古墳を見学すると共に、宇治川の水上交通の拠点としての当該地を現地に残る許波多神社の位置などを通して実感する。	継体大王の新たな支配体制 武力でもって新たな王権を確立した継体大王は5世紀までの封建的支配体制を脱し、ミヤケ制、部民制、国造制という新たな支配体制を確立し、地方豪族の直轄支配体制を目指す。その実態を伊勢湾岸地域に展開する古墳から確認できる。	修了認定試験 講習成果の確認試験を実施。

備考

古墳の見学を行います。歩きやすい運動靴でおこしください。